

9:55 漢文の速読



授業冒頭の5分間、生徒は市販の教材で漢文の問題に取り組む。各自で答え合わせを行った。速く正確に読むスキルの習得や、句法の確認・定着に加えて、多くの作品に触れ、古典の魅力を感じられるようにすることをねらいとして、毎時間行っている。

本時のキー課題

10:20 中国と日本の鬼・幽霊の特徴を議論



各グループは、中国と日本の鬼・幽霊の共通点や相違点を出し合いながら、縦軸を「現世への未練」「狂気」「勝敗」などと設定していった。「素材文の中の訳せない箇所については、教え合っ」と佐藤先生。生徒は、グループ内で単語や文法などを教え合いながら、読解を進めていった。

本時の概要

〔対象／教科／科目〕2年生／国語／古典B  
 〔分野・単元〕漢文・小説／古文・近世の文章（全3時間のうち2時間目。P.43に単元の指導計画を掲載）  
 〔育成を目指す資質・能力〕知識、思考力、主体性、協働性  
 〔学習内容〕上田秋成『雨月物語』の解説動画を視聴した後、中国と日本の鬼・幽霊の特徴をグループで議論しながら、前時に読解した『夜行逢鬼』『新死鬼』と『雨月物語』の登場人物を4象限のマトリクスにプロットした。それを踏まえて、鬼・幽霊の認識がどう変容したかを、個人でレポートにまとめた。

- 主 主体的な学び
- 対 対話的な学び
- 深 深い学び

主体的・  
対話的で  
深い学び

授業実践

国語

生徒の関心が高い題材の素材文を使って、文化比較の視点から読解力の向上を図る

群馬県立桐生高校 佐藤真紀子

さとう・まきこ 教職歴12年。同校に赴任して2年目。資質・能力育成部。国語科主任。2022年度からICEモデルを取り入れた授業を実践。

学校概要

◎2021年度、群馬県立桐生高校と同桐生女子高校が統合して開校。「ONE TEAM」を合言葉に、生徒・教師が一丸となり、新しい学校づくりを進めている。校訓は、「獨立自尊、自主自律、向学共励」。文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定校（第4期）で、全校生徒を対象にSSHのプログラムを実施。

◎設立 2021（令和3）年

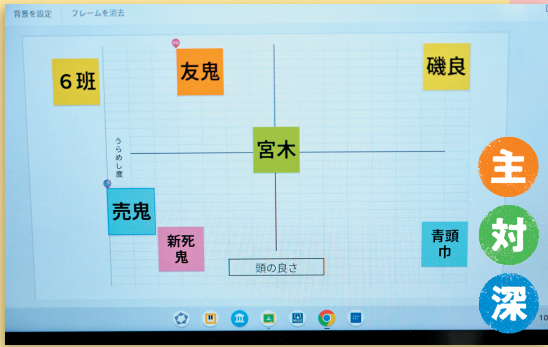
◎形態 全日制・通信制／普通科・理数科／共学

◎生徒数 1学年約320人（全日制）

◎2022年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、東北大、筑波大、群馬大、埼玉大、電気通信大、東京外国語大、横浜国立大、新潟大、金沢大、信州大、大阪大、高崎経済大、前橋工科大などに157人が合格。私立大は、青山学院大、学習院大、慶應義塾大、中央大、東京理科大、法政大、明治大、立教大などに延べ723人が合格。



10:13 素材文の登場人物を4象限で整理



生徒は4～6人ずつでグループを組み、3つの物語の登場人物を、端末の4象限のマトリクスに整理。横軸は全グループ共通の「うらめし度」、縦軸は各グループで話し合っ設定した。生徒は「会えないから恨めしい?」「磯良は、復讐しないよね?」などと考えを出し合った。(©Google)

10:00 『雨月物語』の動画を視聴



佐藤先生は、本時で使用するレポート用紙と自己評価のルーブリックを生徒に配布後、本時の課題が、前時に読解した『夜行逢鬼』『新死鬼』を踏まえて、中国と日本の鬼・幽霊を比較することであると説明。日本の鬼・幽霊を理解するため、生徒は『雨月物語』の解説動画を視聴した。

10:40 本時のまとめ



佐藤先生は、「自分の考える鬼と違う点はありませんか」「『雨月物語』では、宮木の生前の話から始まりましたが、漢文では、鬼たちが死んだ理由は書かれていません。そうした違いにも着目しましょう」と投げかけた。授業終了後もレポートを熱心に書き続ける生徒もいた。

10:35 鬼・幽霊についての自己認識を考察



グループでの議論を踏まえ、鬼・幽霊についての自身の認識がどのように変化したかを考察し、レポートにまとめた。ある生徒は、中国と日本における鬼・幽霊の捉え方の違いに加えて、自然災害と鬼の関連性など、社会的な背景にまで視野を広げて考えをまとめていた。

●私が目指す授業  
**素材文への関心を高めてから、  
 文法や句法の習得に進む**

古典の授業は、教師が文法や句法を説明し、素材文を段落ごとに読み解いていく講義型が一般的です。私もかつてはそうした授業スタイルでした。しかし、文法や句法の説明が中心の授業では、素材文の面白さを感じる前に、古典に苦手意識を持ってしまう生徒が一定数いるといった課題がありました。

そこで前任校では、文法や句法の知識をある程度学んだ2年生を担当した際、予習を不要とし、授業の最初に、生徒同士で相談しながら素材文を読解する時間を設けることにしました。すると、初見の素材文でも、生徒は文法や内容について分からない点を教え合いながら読み進めたのです。また、生徒同士が教え合っていた内容を聞く、文法においても読解においても、生徒は私が想定をしていなかったつまづきをしていることが分かりました。そこで、生徒が教え合う中であぶり出されるつまづきを確認した上で、私が解説をすると、授業を効率的に進められ

るようになりまし

そのようにして授業改善を繰り返すうちに、単元の冒頭に生徒同士で素材文を読んで大意を把握することを通じて、素材文への興味・関心を高めた上で読解を深めていき、最後に文法や句法の解説を行う、現在の単元構成に至りました。

●私の発問・課題設定の観点

「古典探究」を見据え、課題に文化比較の視点を取り入れる

本単元では、「古典探究」の要素を取り入れて文化比較を行おうと考え、中国と日本の鬼・幽霊について考察する課題を設けました。素材文は、教科書の『夜行逢鬼』に加え、中国の鬼・幽霊について理解を深めるための『新死鬼』と、日本の鬼・幽霊について理解するための『雨月物語』を取り上げました。

鬼はアニメなどによく登場するため、生徒は興味があり、よく知っている概念です。古典に親しむための格好の題材になると考えました。ただ、鬼の性格は、日本と中国で大きな違いがあります。日本の鬼は、人を呪い殺すような怖い存在ですが、中国の鬼は、人間にいたずらをして

人間から懲らしめられる存在です。

小説の展開にも、日本と中国で違いがあります。日本の小説では、物語の因果関係が重視され、納得感のある結末であることが一般的ですが、中国の小説は、『夜行逢鬼』のように、最後に鬼が羊になるなど、脈絡のないような話が少なくありません。それらの特徴を踏まえ、生徒が日本と外国の文化の共通点や相違点を考えられる授業にしよう、単元計画を練りました。

本時では、中国と日本の鬼・幽霊の違いを明確にできるよう、4象限のマトリクスを活用しました。横軸は、最も違いが出そうな「うらめし度」を全グループ共通とし、縦軸は、各グループで設定することにしました。

中国と日本の鬼・幽霊の違いを明確に説明できるような縦軸とするためには、物語の内容や登場人物の位置づけを十分理解する必要があります。例えば、あるグループが設定した「現世への未練」は、幽霊になった経緯を重視する『雨月物語』と、生前については一切言及しない漢文の小説の違いを踏まえた、登場人物の配置が可能な適切な指標だと思えます。一方、「鬼の頭のよさ」と設定したグループは、『夜行逢鬼』『新死鬼』

の内容を中心に考えてしまったのでしよう。人間にだまされる間抜けな幽霊もいることに引つ張られて、『雨月物語』の幽霊の位置づけが難しい軸になっていました。

自己評価で到達度を見取り、授業改善に生かす

縦軸の設定は、物語の核心に触れるものです。次時では、各グループが軸として設定したものと、それを設定した理由を発表し、軸として設定したものが適切であったかを、私がフィードバックします。そして、生徒の読解が不十分だった箇所については、文法や句法の指導を織り交ぜながら解説します。生徒が、素材文を正しく読解するためには、文法や句法の知識が必要だと理解してくれることを期待しています。

また、次時では、生徒が自身の成長を認識できるよう、ICEルーブリック(図・\*1)で自己評価します。教師も、同じルーブリックで生徒一人ひとり評価し、生徒の自己評価が「C」でも、教師が見たら「I」といったように、自己評価の妥当性についてフィードバックします。例えば、思考力の「C」では「根拠」

図 自己評価のICEルーブリック

	評価材料	I (考え・基礎)	C (つながり・活用)	E (応用・ひろがり)
知識・技能	定期考査	【使役・禁止】などの句法に気づき、適切に訳すことができた。	【強い否定・疑問】の句法に気づき、訓読や文脈から適切に訳すことができた。	【置き字】に気づき、文脈から適切に書き下すことができ、他の用法との違いを整理できた。
思考力	レポート	各文章に登場した鬼(幽霊)を比較できた。	比較の際に、本文に根拠を求めることができた。	読んだ文章以外からも怪異小説などに登場する鬼(幽霊)を比較できた。
主体性	4象限のマトリクス	縦軸と横軸の項目立てを意識して本文を読むことができた。	複数の本文を縦軸項目を立てることを意識して読んだり、分析したりすることができた。	複数の本文を読んだり、分析したりしたことを、他の作品でもあてはまるものがないかを考えた。

※学校資料を基に編集部で作成。

が求められますが、生徒が根拠だと思っていることが、根拠になっていない場合があります。あらゆる読解に求められる根拠を、古典でも意識させたいと考えています。

ルーブリックは、授業改善にも活用しています。特に古典では、知識・技能の習得でつまづく生徒が多いため、自己評価を継続的に行い、知識・技能に関する自己評価の変容を踏まえて、授業の改善点を探っています。

\*1 ICEモデル・ICEルーブリックは、スー・F.ヤング博士とロバート・J.ウィルソンによって日本に紹介された学習・評価方法。I・C・Eは、Ideas (基礎的知識)、Connections (つながり)、Extensions (応用) で、それぞれ学びの段階(フェーズ)であり、そのフェーズ構成が「人の成長を促すフレームワーク」として機能する。

### 生徒の意欲を高める学習評価を目指す

教務主任(国語科) 七原 登先生



本校では、単に点数をつけるだけでなく、「生徒の学習意欲につながる評価」を目指し、学習評価のあり方について模索しています。本校の生徒には、教師からの叱咤激励に奮起するというよりも、褒められることでやってみようという意欲が湧く傾向があります。そこで国語科では、2022年度の1学年において、学習内容のまとめや気づきを「Classi」(\*2)を入力する、振り返りの場を設けています。教科担当者や担任は、生徒一人ひとりの振り返りを読み、生徒が前向きになるよう、励ましやアドバイスの言葉を返しています。また、ワードクラウド(\*3)を使って、振り返りの中で多く出てきた言葉を抽出することにより、成果や課題を把握して授業改善に生かす試みも始めました。

生徒が自分の考えや疑問を100字でまとめる「100字コメント」を、「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料にするクラスもあります。その取り組みでも、担任が生徒に丁寧にフィードバックをしており、模擬試験の成績が他クラスよりも伸びていました。生徒の思考を教師が受け止めることが、生徒を伸ばす学習評価になると改めて感じています。

今の授業スタイルに改めてから、生徒は素材文の読解には文法や句法の知識が必要であることを実感し、意欲的に学ぶようになりました。今後の課題は、生徒が精読にしっかりとついてこられるようにすることです。グループの学び合いによって理解は深まったものの、独力で読解することができる力はまだ身につけていない生徒もいます。そうした生徒

●成果と展望  
グループワークで身につけた力を、  
独力で活用できるように

VIEWnext ONLINEでは、本時の授業の様子をダイジェスト動画で紹介!



VIEWnext ONLINE 検索



が意欲・関心を持って学び続けられるようにサポートすることで、全体の底上げを図りたいと考えています。

### 単元の指導計画

【教科・科目】国語・古典B 【分野・単元】漢文・小説/古文・近世の文章 【テーマ・作品】『夜行逢鬼』『新死鬼』『雨月物語』  
【設定時数】全3時間(本時は2時間目) 【単元目標】中国文化と日本文化の関係について理解を深める。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	『夜行逢鬼』『新死鬼』の読解	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く、素材文を読み解くことができる。</li> </ul> <p>【思考力、主体性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>『夜行逢鬼』『新死鬼』を読解し、漢文の小説における「鬼」について理解する。</li> <li>4象限のマトリクスを示し、次時に取り組む素材文を読み比べる課題について、教師が説明する。</li> </ol>	<p>【主体的な学び】4象限の縦軸となる項目を見つけられるようにし、学習の見通しを持たせる。【対話的な学び】読解した内容を互いに伝え合う場を設ける。【深い学び】4象限の縦軸となる項目を決めるよう、各グループに意識させる。</p>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国と日本の鬼・幽霊の共通点・相違点を議論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに意見を出し合ったり、相手の意見を尊重したりすることができる。</li> <li>自分の考えの変化を言語化することができる。</li> </ul> <p>【知識、思考力、主体性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4象限のマトリクスを示し、素材文を読み比べる課題について、教師が説明する。</li> <li>『雨月物語』について解説した動画(NHK for school)を、生徒が視聴する。</li> <li>生徒はグループを組み、前時に読解した『夜行逢鬼』『新死鬼』と、『雨月物語』の内容を踏まえ、中国と日本の鬼・幽霊の共通点や相違点について考察する。</li> <li>生徒は個人で、鬼・幽霊に対する自身の認識の変容をレポートにまとめる。</li> </ol>	<p>【主体的な学び】4象限の縦軸の項目をどのように決めたのか、理由を言語化させる。【対話的な学び】読解した内容を互いに伝え合う場を設ける。【深い学び】中国と日本の文化の違いに着目できるようにし、鬼・幽霊に対する自身の認識の変容を意識させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4象限の縦軸の作成</li> <li>レポート</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国の小説と日本の小説との違いについて考察</li> <li>重要句法の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの意見を踏まえて、素材文の読解を深めることができる。</li> <li>句法を正しく身につけることができる。</li> </ul> <p>【知識、主体性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>前時に作成した4象限のマトリクスやレポートを、クラス全体で共有。生徒は、自分の認識と他者の認識とを比較して、『夜行逢鬼』『新死鬼』『雨月物語』の読解を深める。</li> <li>重要句法等を確認する。</li> <li>ルーブリックを用いて自己評価を行う。</li> </ol>	<p>【主体的な学び】ルーブリックを見ながら自己評価を行い、自身の認識の変容をメタ認知させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記述演習</li> <li>自己評価</li> </ul>

※佐藤先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

\*2 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。  
\*3 テキストデータを視覚化するための方法で、テキスト内に頻出している単語ほど大きく表示される。無料で利用できるツールもある。